

東山梨地区 国語科教育研究部会

1. 研究テーマ

「 思考力・判断力・表現力を育む国語科の指導 ～言語活動の充実を通して～」

コミュニケーションツールの変化や人間関係の希薄化、情報があふれている現代社会において児童にとってより良い人間関係を構築していくための表現力や、自分で考え判断し必要な情報を取捨選択していく力が、今まで以上に重要なものとなってくる。国語科の果たす役割は益々大きなものとなっていくだろう。

小学校部会では、これまで「伝え合う力」を高め、豊かな表現力を子どもたちに育成することをテーマに研究を進めてきた。今年度は、表現力だけではなく、思考力や判断力の育成にも視点をあて、児童につけさせたい言語能力を明確にした上で、それに合わせた言語活動の開発にも取り組んでいきたい。

2. 研究の経過・予定

5月6日	組織作り，研究テーマの決定
5月18日	年間計画，授業者の決定
6月1日	研究授業について（学級の実態，授業者の願い等） 実践例の交流
8月1日	夏季学習会（佐藤喜美子先生「言語活動の充実と具体化の一工夫 物語のクライマックスを考える学習」） 授業案検討
8月31日	統一授業研（小学校）
9月28日	授業研究その後 実践発表
11月30日	実践発表
1月11日	授業案検討（中学部会との合同学習会）
2月8日	統一授業研（中学校）
2月15日	研究のまとめ

3. 共同研究者

部長 望月清美（日下部小）

副部長 橋本耀太（日下部小）

部員 岡村理恵（後屋敷小） 武井美奈子（日川小） 阿部ますみ（山梨小）

武井由美（山梨小） 松岡めぐみ（山梨小） 前田文（塩山南小）

若月美乃里（神金小）

指導・助言 雨宮弘志（奥野田小） 網野勝朗（菱山小）

心情曲線を用い、中心人物の心情の変化を読み取る「読むこと」の学習指導

山梨市立加納岩小学校

加賀美 瑞穂

1 単元名

「物語の中心人物の気持ちの変化を読もう。」

つきたい言語能力

中心人物の気持ちが物語全体を通してどのように変化したか、叙述を基に読みとる力

2 学習材 「サーカスのライオン」

3 対象学年 3年生

4 単元の目標

【関心・意欲・態度】

物語に興味をもち、中心人物の気持ちの変化を考えながら読もうとしている。

【読む能力】

物語の中心人物の気持ちが全体を通してどのように変化したかを読み取ることができる。

【C読むことウ】

文章を読んで考えたことについて発表し合い、一人ひとりの感じ方について違いのあることに気付くことができる。【C読むことオ】

【言語に関する知識・理解・技能】

表現したり理解したりするために必要な語句を増やす。【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

5 単元について

(1) 児童観

本学級は男子13名女子15名の計28名の学級である。全体的に明るく元気な学級であり、発言も多く、積極的である。自分の考えを友達や教師に聞いてほしいという思いを持つ児童が多い。これまで物語を読む学習では、場面の様子や人物の気持ちを叙述から読みとって音読で表現したり、場面の移り変わりに注意して読み、あらすじをまとめたりする学習を行ってきた。3年生になってからは、「きつつきの商売」で二つの場面を比べて読み、場面の様子や違いに注意しながら音読を行った。「もうすぐ雨に」の学習では、中心人物である「ぼく」が動物と話すことができるという不思議な出来事を通して、動物の気持ちがわかるようになるという中心人物の変化を押さえながら読むことを行ってきた。しかし、5月に行われた山梨県学力把握調査における「読むこと」の結果を見ると、文章の叙述を基に自分の考えを書いたり、感想を書いたりすることが課題であると言える。山梨県学力把握調査における「読むこと」の結果は以下の通りである。

3年生

設問 番号	設問の趣旨	正答率 (%)		無解答率 (%)	
		本校	山梨県	本校	山梨県
9一	事柄の順序等を考えながら読み、内容を理解することができる	57.9	72.3	5.3	6.9
9二	自分の考えをまとめるために、文章に書かれている大事な言葉や文を書き抜くことができる	57.9	48.8	15.8	8.7
9三	自分の考えを書くために必要な言葉に着目することができる	56.1	62.3	12.3	8.5

山梨県全体の課題として、「読むこと」の領域3年生では、9二「自分の考えをまとめるために、文章に書かれている大事な言葉や文を書き抜くこと」が挙げられている。本校でも正答率は60%をきっており、課題であると言える。さらに、本校では、「考えをまとめるために大事な言葉や文を書き抜くこと」や「目的に応じて引用し、引用した理由をまとめること」などといった、記述式の設問において正答率が低く、また、県全体の結果と比較し無解答率が高い。このことから、文章の叙述を基に自分の考えを書いたり、感想を書いたりすることが課題であると考えられる。

本単元では、叙述を基に登場人物の心情の変化を考えることで、課題となっている「文章の叙述を基に自分の考えを書いたり、感想を書いたりする」力をつけていきたい。

(2) 教材観・指導観

文学的文章の授業では、学習指導要領における指導事項を通して、児童に一つの教材にのみ通用する学習ではなく、自らの読書生活の中で、文学的文章を読む際に生きる力「自力読みの力」をつけたいと考えている。筑波大学附属小学校教諭である二瓶弘行氏は「自力読みの観点」、文学的文章の学習内容として以下のことを挙げている。

○構造

- 1 「冒頭」「出来事のはじまり」「クライマックス場面のはじまり」「クライマックス」「出来事の終わり」「むすび」
- 2 「場面」の構成
- 3 「冒頭場面」・「出来事の展開場面」・「クライマックス場面」・「その後の場面」
- 4 「構造曲線」
- 5 「あらすじ」（「場面」の数以内の文でまとめる）

○設定

- 6 「人物設定」（中心人物・重要人物・人物関係図）
- 7 「時の設定」（場面の数以内でまとめる）
- 8 「場の設定」（場面の展開に応じてまとめる）
- 9 「核となるもの・こと・存在」

○視点

- 10 「話者」と「作者」
- 11 「視点人物」

- 1 2 「一人称」と「三人称」
- 1 3 「三人称客観視点」と「三人称限定視点」と「三人称全知視点」
- 1 4 「視点（視点人物）の転換」
- 技法
- 1 5 「比喩」（「擬人法」「直喩」「暗喩」）
- 1 6 「対比」
- 1 7 「反復」（繰り返し・リフレイン）
- 1 8 「伏線」
- 1 9 「オノマトペ」（「擬態語」「擬音語」）
- 2 0 「リズム」
- 2 1 「文末表現」
- 主題
- 2 2 「題名」（自分の「作品の心」との関連）
- 2 3 「核となる言葉」（「作品の心」と最も密接な一文）
- 2 4 「周辺の言葉」（「作品の心」と関連する重要な一文・言葉）
- 2 5 「作品の心」（作品が自分に最も強く語りかけてきたこと）

二瓶氏の述べる「作品の心」は、中心人物の変容、クライマックスと大きく関わっている。筑波大学附属小学校教諭である青山由紀氏、二瓶弘行氏、白石範孝氏、桂聖氏、青木伸生氏の5人が示す文学的文章で教えるべき内容を表にすると以下のようなになる。

	青山由紀	二瓶弘行	白石範孝	桂聖	青木伸生
--	------	------	------	----	------

物語の構造・設定・あらすじ	基本構造をとらえる力 ・構造 ・登場人物 ・時 ・場 ・事件 ・出来事 ・結末	構造 ・「冒頭」「出来事のはじまり」「クライマックス場面のはじまり」「クライマックス」「出来事の終わり」「むすび」 ・「場面」の構成 ・構造曲線 ・あらすじ 設定 ・「人物設定」（中心人物・重要人物・人物関係図） ・「時の設定」（場面の数以内でまとめる） ・「場の設定」（場面の展開に応じてまとめる） の・こと・存在」	・事件（出来事） ・結末・冒頭 ・場面 ・あらすじ ・設定 ・登場人物 ・中心人物・対人物 ・基本構成 ・伏線 ・山場・クライマックス ・人物関係図	作品の設定	作品の構造をつかむ ・起承転結 ・伏線 ・冒頭，事件，山場，結末
視点	視点をとらえる力	視点 ・「核となるも「話者」と「作者」 ・「視点人物」 ・「一人称」と「三人称」 ・「三人称客観視点」と「三人称限定視点」と「三人称全知視点」 ・「視点（視点人物）の転換」	「語り手」の存在(視点)	視点	視点(物語における語り手)
表現	技法とその効果をとらえる力	技法 ・「比喩」（「擬人法」「直喩」「暗喩」） ・「対比」 ・「反復」（繰り返し・リフレイン） ・「伏線」 ・「オノマトペ」（「擬態語」「擬音語」） ・「リズム」 ・「文末表現」	・地の文・会話文 ・説明 ・描写 ・文語調	表現技法	表現技法をとらえる
主題	主題をとらえる力	主題 ・「題名」（自分の「作品の心」との関連） ・「核となる言葉」（「作品の心」と最も密接な一文） ・「周辺の言葉」（「作品の心」と関連する重要な	・一文で表現する ・主題 ・題名	主題	主題をとらえる

		一文・言葉) ・「作品の心」(作品が自分に最も強く語りかけてきたこと)			
人物の変容	人物の変容をとらえる力		事件(できごと)人物の変容	中心人物の変化	
自分の考え			おもしろさ		<ul style="list-style-type: none"> ・感想を持つ ・登場人物を評価する ・続き話をつくる ・心情を想像する ・場面の様子を想像する

それぞれ言葉の違いや下位項目の数などに差はあるが、5人教諭が文学的文章の授業の学習内容として挙げていることをまとめると以下の6点にまとめられる。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ①物語の構造・設定・あらすじ ②人物の変容 ③主題 ④視点 ⑤表現 ⑥物語に対する自分の考え |
|---|

本単元では、主に上図②の中心人物の心の変容を読み取る学習を行う。「サーカスのライオン」は時や場を表す言葉を手がかりに場面分けができ、物語の構成や大体をとらえやすい作品である。また、中心人物の気持ちの変化を読み取るための手立てとなる人物や出来事が明確であるため、初めて登場人物の気持ちの変化を学習するための教材に適している。「風のように」「うきうき」「ぐうんと」といった比喩や擬態語などの表現方法が多く用いられていることも大きな特徴であり、心情の動きを感じたり、情景描写のイメージを膨らませたりすることができる。

前の場面と比べながら読む活動を繰り返し行い、気持ちの変化を心情曲線に表すことで、物語全体を通しての登場人物の気持ちの変化を押さえていく。本単元では、特に、中心人物である「じんぎ」の気持ちが一番大きく変化したところをおさえ、またなぜ変化したのかを叙述を基に考えることで、中心人物の気持ちが物語全体を通してどのように変化したか、叙述を基に読みとる力を付けていく。

※クライマックス場面とは

物語全体を通してあること(中心人物の「心」)が、最も大きく変わる場所。(二瓶弘行)
物語において中心人物の心情や様子がいちばん大きく変容した場所。(白石範孝)

本単元においては、クライマックス場面を「物語全体を通して、中心人物の心情や様子が一

番大きく変容したところ」と定義する。

5 単元の指導計画と評価計画

時	学習活動	評価
第一次 学習材と出会う。		
1	<ul style="list-style-type: none"> ○題名, 作者をとらえる。 ○「サーカスのライオン」の範読を聞く。 ○わからない漢字の読み, 語句の意味を確認する。 ○物語の基本設定を押さえる。 人物設定…中心人物(じんざ) 対人物(男の子) 時の設定 場の設定 ○単元を通して, 中心人物の心情の変化を読み取っていくことを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆題名や作者, 物語の基本設定について読みとっている。【ノート】 ◆中心人物をおさえている。【ノート】
第二次 物語を読み深める		
2	<ul style="list-style-type: none"> ○じんざの行動や様子を表す叙述に線を引ながら第一場面の範読を聞く。 ○じんざの心情を考え, 根拠になる叙述をワークシートに書き込む。 ○考えをペア→全体で交流する。 ○じんざの気持ちを心情曲線に表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆第一場面のじんざの行動や様子を根拠にじんざの心情を考えている。【ワークシート】 ◆文章を読んで考えたことについて発表し合い, 一人ひとりの感じ方について違いのあることに気付くことができる。
3	<ul style="list-style-type: none"> ○じんざの行動や様子を表す叙述に線を引ながら第二場面の範読を聞く。 ○じんざの心情を考え, 根拠になる叙述をワークシートに書き込む。 ○考えをペア→全体で交流する。 ○じんざの気持ちの変化を心情曲線に表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆第二場面のじんざの行動や様子を根拠にじんざの心情を考えている。【ワークシート】 ◆文章を読んで考えたことについて発表し合い, 一人ひとりの感じ方について違いのあることに気付くことができる。
4	<ul style="list-style-type: none"> ○じんざの行動や様子を表す叙述に線を引ながら第三場面の範読を聞く。 ○じんざの心情を考え, 根拠になる叙述をワークシートに書き込む。 ○考えをペア→全体で交流する。 ○じんざの気持ちの変化を心情曲線に表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆第三場面のじんざの行動や様子を根拠にじんざの心情を考えている。【ワークシート】 ◆文章を読んで考えたことについて発表し合い, 一人ひとりの感じ方について違いのあることに気付くことができる。
5 本時	<ul style="list-style-type: none"> ○じんざの行動や様子を表す叙述に線を引ながら第四場面の範読を聞く。 ○じんざの心情を考え, 根拠になる叙述をワークシートに書き込む。 ○考えをペア→全体で交流する。 ○じんざの気持ちの変化を心情曲線に表す。 ○クライマックス場面について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆第四場面のじんざの行動や様子を根拠にじんざの心情を考えている。【ワークシート】 ◆文章を読んで考えたことについて発表し合い, 一人ひとりの感じ方について違いのあることに気付くことができる。
第三次 自分の読みに生かす		

6	<p>○「サーカスのライオン」のワークシートを振り返り、中心人物の心情の変化を、心情曲線を用いて読み取ってきたことを想起する。</p> <p>○中心人物の気持ちや様子が最も大きく変容するところが「クライマックス場面」であったことを確認する。</p> <p>○「ちいちゃんのかげおくり」と出会い、題名、作者をとらえる。</p> <p>○「ちいちゃんのかげおくり」の範読を聞き、初発の感想を書く。</p> <p>○わからない漢字の読み、語句の意味を確認する。</p> <p>○物語の基本設定を押さえる。</p> <p>人物設定…中心人物（ちいちゃん）</p>	<p>◆題名や作者、物語の基本設定について読みとっている。【ノート】</p> <p>◆中心人物をおさえている。【ノート】</p>
7 5 9	<p>○場面ごとに読み深める。</p> <p>○場面ごとの出来事や、「ちいちゃん」の心情や行動、空の様子などの叙述に線を引いたり、ワークシートに書き込んだりする。</p> <p>○叙述からわかる「ちいちゃん」の心情を想像し、ワークシートに書き込む。</p> <p>○全体で考えを交流する。</p>	<p>◆ちいちゃんの行動や様子、出来事などの叙述を根拠にちいちゃんの心情を考えている。【ワークシート】</p> <p>◆文章を読んで考えたことについて発表し合い、一人ひとりの感じ方について違いのあることに気付くことができる。</p>
1 0	<p>○叙述を根拠に「ちいちゃんのかげおくり」のクライマックス場面（ちいちゃんの気持ちや様子が最も大きく変化した所）はどこか考える。</p> <p>○ちいちゃんのかげおくりを読んで感じたことや考えたことを書き、作者であるあまんきみこさんに手紙を送る。</p>	<p>◆文章を読んで考えたことについて発表し合い、一人ひとりの感じ方について違いのあることに気付くことができる。</p>

6 本時の授業

- (1) 日時 平成28年8月31日 5校時 14:00～14:45
- (2) 場所 加納岩小学校 3年2組教室
- (3) 目標 第四場面を読み、じんざの行動や様子を根拠にじんざの心情を考えることができる。
- (4) 展開 (第5時／10)

段階	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
受け止める	<p>1 前時までの学習を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元の目標を確認する ・前時まで、第一場面から第三場面までのじんざの気持ちを考え、じんざの気持ちの変化を心情曲線に表してきたことを確認する。 <p>2 本時の課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>第四場面を読み、じんざの行動や様子からじんざの気持ちを考えよう。</p> </div>		
考える	<p>3 「サーカスのライオン」の第四場面を読み、じんざの気持ちを考える。</p>		

<p>○じんざの行動や様子を表す文に線を引きながら、範読を聞く。</p> <p>○第四場面のじんざの心情を想像し、ワークシートに書き込む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心情をワークシートに書き込む。 ・心情の根拠となる叙述をワークシートに書き込む。 <p>○ペアで考えを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が考えるじんざの心情と、その根拠を伝え合う。 ・友達の意見を聞き、疑問に思ったことや納得したことなど、質問、感想、意見などを話し合う。 <p>○全体で考えを交流する。</p> <p>○じんざの心情を心情曲線に表す。</p>	<p>◆心情の根拠となるじんざの行動や様子は必ず教科書の叙述から探すことを意識させる。</p>	<p>○じんざの心情を、叙述を根拠に考えることができる。【ワークシート】</p> <p>○自分の考えと友達の考えを比べながら聞き、共通点や相違点を見つけ、一人ひとりの感じ方について違いのあることに気づくことができる。【発言】</p>
<p>分かる</p> <p>4 心情曲線を見ながらじんざの心情の変化をとらえる。</p> <p>○じんざのやる気が最も高くなっていることを確認する。</p> <p>○物語の中で、中心人物の気持ちが最も変化しているところを「クライマックス場面」ということを知る。</p>	<p>◆前時までに学習した物語の始まりのじんざと、本時の学習で考えてきたクライマックス場面のじんざの心情を比べ、じんざの心情の大きな変化に気づかせる。</p>	<p>○物語の始まりのじんざと、クライマックス場面のじんざの心情を比べ、その変化を読み取っている。【ワークシート・発言】</p>

(5) 評価規準

A 充分満足	B 規準実現	C 努力を要する児童への手立て
<p>じんざの心情を、これまでの男の子とじんざとの関わりやじんざの行動や様子を根拠に読み取り、じんざの心情の変化を心情曲線に表している。</p>	<p>じんざの心情をじんざの行動や様子を根拠に読み取り、じんざの心情の変化を心情曲線に表している。</p>	<p>じんざの行動や様子を一緒に確認し、そこからじんざのどのような気持ちがわかるか考えさせる。</p>

7. 児童のワークシート

The image shows a student's handwritten worksheet. On the right side, there is a vertical column titled '人物の行動や出来事' (Character's actions and events) with a list of items: '・ライオンのはじんざは(年取って)いた。', '・テントのかけはこの中で一日中(ねむ)でいた。', and '・自分の番が来ると、じんざは(シノ)と立ち上がる。'. Below this, there is a section for '中心人物' (Main character) with a line graph showing a fluctuating mood curve. The graph has a vertical axis labeled '5' and '4' and a horizontal axis. The curve starts at a high point, drops, rises, drops again, and then rises to a peak. To the left of the graph, there is dense handwritten text in Japanese, which appears to be a student's analysis or notes related to the character's mood and actions.

8. 研究の成果と課題

○成果

- ・ 児童一人ひとりが中心人物の心情を一生懸命考え、自分なりの考えを持つことができた。
- ・ 中心人物の心情を考える上で必要となる言葉や文を叙述から探し、抜き出すことができた。

◆課題

叙述の抜き出しについて

- ・ 児童から全てを引き出そうとするのではなく、重要ポイントを教師の方でもおさえ、教師から提示することも重要である。
- ・ 児童のワークシートでは、叙述の時系列が整理されていなかった。順を追って行動を整理し、細かく丁寧に読み取っていく必要がある。

ワークシートについて

- ・ 行動や出来事など、記述欄をしっかりと整理し、わかりやすいものにする。
- ・ 叙述を書き出すのは時間がかかる。本文をワークシートに入れ、線を引くだけにするだけで、叙述を書き出す時間を短縮する。

ペア学習・交流について

- ・ どのような視点で交流すればよいのかを事前に示すことが必要である。
- ・ 交流をどのように進めていくの、小学校の段階では、型を示すなど、教師が丁寧に関わり、指導していくことが必要である。

用語「クライマックス場面」の学習について

- ・ 「クライマックス場面」とは何かを理解していない児童が見られる。児童から出た言葉（「気持ちもマックスになる」）を使い、説明することで、もう少しわかりやすいものになった。「クライマックス場面」の用語については、もう少し丁寧に指導していく必要がある。

心情曲線について

- ・ 心情曲線を書く際、心情という抽象的な言葉では、平面で表すことが難しい。「やる気」等、具体的な言葉に絞ることで、曲線に表しやすくする。